高瀬神社 社報

越中一宮

第48号

平成28年1月1日

越中一宮 高瀬神社

http://www.takase.or.jp/

撮影：南部スタジオ

年頭講話「新しい年を迎えて」

宮司　藤井秀弘

新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、まずもって皇室の弥栄と国家の隆昌、氏子崇敬者各位の益々のご繁栄をご祈念申し上げます。

新しい年を皆様と共に迎えることができましたことは何よりの喜びであり、大神様、先祖代々世々の御霊に感謝致します。

昨年は、日本人二人がノーベル賞を受賞するという素晴らしいことがあった反面、北関東・東北地方の大洪水をはじめ自然災害が多数発生したり、マンション建設の杭打ちデータの改ざんなど、事件や事故が頻繁に起こったりした年でした。

毎年年末にその年を振り返り、反省して、新たな気持ちで新年を迎えるのですが、年末になると良くないことばかりが目に付き、また同じ結果になっています。場合によっては更なる問題が起こることもあります。

自然災害など自然のことは、人間の力ではどうすることもできませんが、社会生活においては人の力で解決できることが殆どではないかと思います。人間は常に進化（成長）しているはずなのに、どうして過ち（失敗）を繰り返すのでしょうか。初詣に行き、御神前で祈念した心を忘れずに毎日の生活に励みたいものです。

今年は暖冬と予報されていますが、実際にはどうなるか心配です。日常生活での降雪は迷惑かもしれませんが、スキー場など雪が必要な場所は歓迎しています。自然現象のことはどうすることもできないわけですから、どうにもならないことに腹を立てたり、恨んだりして日々過ごすことは無益なことでしょう。それよりも心の持ち方を変えて、「冬は雪が降るのが当たり前」「雪の楽しみ方はないだろうか」「冬の試練を越えてこそ春の喜びがある」と、冬や雪を素直に受け入れて、自然と共に生活するという前向きな日々を送ることが、大切だと思います。

厄介なことから逃げようとすると、逆にやって来るものです。むしろ解決に向けて積極的に取り組んだほうが、良い結果になるでしょう。

今年は「丙申（ひのえさる）」の年。申年です。漢和辞典から「丙」と「申」の意を引いてまとめると「伸びたり縮んだり。善悪が相半ば。ゆえに神に委ねるのが良い。」ということだそうです。行動を起こさないで伸びないのであれば、心を決めて、行動を起こしてみることが大切ではないかと思います。あとは神様のお導きがあるはずです。

知知夫国（ちちぶのくに）一ノ宮　秩父神社（埼玉県）の本殿にある三猿彫刻は、日光東照宮とは逆で「よく見て、よく聞いて、よく話す」という仕草の三猿で「お元気三猿」と親しまれているそうです。この三猿にあやかり、今年は面倒くさいと思うことに自ら飛び込み、積極的な心で取り組みを進めてみてはいかがでしょうか。きっと問題や悩みは去る（サル）ことでしょう。

更なるご多幸をお祈りしております。本年も宜しくお願い申し上げます。

謹賀新年

平成二十八（丙申）年
皇紀二六七六年

宮司　藤井秀弘
権宮司　藤井秀嗣
禰宜　河合正登
権禰宜　長谷川宏幸
魚岸一弥
巫女　今井茉里奈
山下翔子
小倉南留美
参集殿支配人　中井直美
ウエディングプランナー　藤井友希
中島璃子
嘱託　上口友子

幣饌料御奉献奉告祭

「第三十五回 全国豊かな海づくり大会」のため、平成二十七年十月二十四日から二十六日まで県内に行幸啓遊ばされた天皇・皇后両陛下。このたびの富山行幸啓にあたり、旧官国幣社及び旧指定護国神社に幣饌料をお供えされる旨仰せ出され、二十四日、富山市内の行在所で伝達式が行われ、幣饌料が伝達されました。

当神社では二十五日午前八時より、責任役員・総代参列のもと「幣饌料御奉献奉告祭」を斎行し、謹んで御神前に奉奠しました。

祭事録

例祭（大祭）

九月十三日午前十時より例祭が斎行され、加賀国一ノ宮 白山比咩神社 村山和臣宮司をはじめ氏子・崇敬者約六十名が参列しました。

宮司祝詞奏上、神楽「浦安の舞」奉奏の後、南砺市の女声コーラスグループ、ソット・ヴォーチェの先導により、「越中一宮 高瀬神社奉讃歌」を一同で奉唱しました。

続いて功霊殿において例祭が斎行され、井波松風会会員により「凱旋（作・乃木希典）」、「大正天皇御製 宝刀」の吟詠を奉納いただきました。

大東亜戦争終結七十年となる節目の年に、約五十名のご遺族とともに、英霊に感謝の誠心を捧げました。

祭事録

―献穀田だより―
抜穂祭・初穂曳奉仕

九月二十日午後二時より、越中一宮高瀬神社献穀田の抜穂祭が行われました。

今年は井波地域中核農業士協議会（柴田嘉久会長）の会員安田外喜男氏が奉耕者となり、御田植祭をはじめ、諸祭儀を経てこの日を迎えました。

斎田（南砺市高瀬）では地元中学生の早乙女五名が、黄金色に実ったコシヒカリを丁寧に刈り取りました。

収穫された稲は、当神社の新嘗祭でお供えされたほか、十月十七日、伊勢の神宮で斎行された神嘗祭に懸税として奉献されました。

このお祭りに先立つ十月十五日に行われた神宮の「初穂曳き」に、奉耕者の安田氏ご夫妻が参加されました。

早乙女奉仕者

中川日向子さん
前川　玲奈さん
福井　彩夕さん
長井　暖果さん
澤田　怜奈さん

「初穂曳き」に参加された安田氏ご夫妻

新嘗祭（大祭）

十一月二十三日午前十時より新嘗祭が斎行され、氏子崇敬者・農業関係者約七十名が、五穀豊穣と収穫に感謝しました。

献穀田（南砺市高瀬）で収穫された玄米を奉耕者・安田外喜男氏が、白米を井波地域中核農業士協議会・柴田嘉久会長が、白酒を岩倉和弘稲作部長がそれぞれ奉納されました。

また、本年は、なんと農業協同組合・上田憲仁代表理事組合長が、幣帛供進使としてご奉仕されました。

祭典終了後、長年農業発展の為に寄与された篤農家表彰と、献穀田奉耕者・篤志奉納者に感謝状と記念品が贈呈されました。

【篤農家表彰】
窪田　謙治　殿（南砺市高宮）
杉本　　清　殿（南砺市金戸）

【献穀田奉耕者】
安田外喜男　殿（南砺市北川）

【篤志奉納者】
岩倉　友子　殿（南砺市高瀬）

観月祭

～大土地神楽奉納～

中秋の名月（旧暦八月十五日）にあたる九月二十七日、島根県出雲地方に伝わる国重要無形文化財「大土地神楽」の奉納があり、参拝者は神話を基にした迫力の神楽を楽しみました。

本年の観月祭は、当神社で七月七日に行われた「平成二十七年度くにたまの会総会」を記念し、大土地神楽保存会を招き行いました。

《平成二十八年》

祭事暦

一月	一日	歳旦祭
一月	三日	元始祭
一月	七日	昭和天皇祭遥拝
一月	二十五日	天神祭
二月	三日	節分祭
二月	十一日	紀元節祭
二月	十七日	祈年祭
三月	八日	鎮火祭
三月	二十一日	春季皇霊祭遥拝
四月	三日	神武天皇祭遥拝
四月	十日	春季祭
四月	二十九日	昭和祭
六月	十日	祈年穀祭
六月	十九日	風宮例祭
六月	三十日	稲荷社例祭
仝		夏越大祓
七月	十九日	人形感謝祭
七月	二十二日	除熱祭
八月	七日	七夕祭
八月	十六日	中禮祭
九月	**十三日**	**例祭**
九月	二十三日	秋季皇霊祭遥拝
十月	二日	村まつり
十月	十七日	神嘗奉祝祭遥拝
十月	吉日	献茶祭
十一月	三日	明治節祭
十一月	十三日	神明宮例祭
十一月	十五日	七五三祝祭
十一月	二十三日	新嘗祭
十二月	二十三日	天長節祭
十二月	三十一日	師走大祓
仝		除夜祭

◎毎月一日・十三日　月次祭
◎毎月十三日　交通安全祈願祭

高瀬遺跡[*1]の銅銭について

山田澄一

昭和三十七年春、山田忠一郎が自作地穴田で田直しをしていて、土中から発見された一握りの塊りを私澄一に渡し、私も「どんなもの？」と見た処、沼まみれの一握の土塊ですが、古銭である事が判り、手で土を落とし、静かに布と水で拭いて見ますと、神功開宝[*2]と判りました。又、その下も神功開宝らしいのですが、一番上は四分の一程欠落して、残りは丈夫に思われました。中央の穴は少しずれていましたが、紐でも通せる様に思われました。銹（さび）が酷くて素人には扱い難いと考えられ、すぐ教育委員会へ届出ました。枚数は六、七枚と予想出来ました。それ以前に出土した土器等が平安時代前期と予想されていました。

これらの情報が判ると「見せてもらいたい」と次から次と訪ねて来て頂く方々にお見せしましたが、見るだけにして頂きました。こちらが動かす裡（うち）に銹（さび）も取れたのか二つに別れて二個の塊になり、これを写真に写したことを思い出し、探したところ出て来たのが下の拡大した写真です。これを見れば二個の塊の中央の穴がサシである事が奇麗に判るのです。

それから県を通じ、奈良の国立博物館にて神功開宝の塊を薬品に依り分解し、計尺及計重の為借用したいとの要請があり、橋本技官が借用証を持って来訪されたのでお渡ししました。其後奈良で字画等計測されて神功開宝四枚、和同開珎[*3]一枚、隆平永宝[*4]二枚と判りました。

一旦手元を離れた七枚の古銭は各地の発掘調査の展示会場に展示されて、皇朝十二銭の姿を見て頂きました。

七枚が一塊となり、七〇八年・七六〇年・七六五年・七九六年の銅銭が一ヶ所から出土した事は一人の人間の持物と考えられるとのことでした。

古銭は紐を通して持出し、その紐が多年の風化で自然消滅したとも考えられます。

又、別の発掘調査で発見された二点の万年通宝[*5]と神功開宝は表土にて発見され、一緒に計測されました。なお発掘にあたられた阿部技官は発掘後の座談会で出た質問に「儀式等に使用されたのではないかと問う人があるが、それはない。」と結論され、その時、珍しい祝儀用に撒かれた竹に雀の細工の古銭を見たことがあると語られました。発掘された古銭は一個所から出た事としなければならないので、発見から寄附迄の期日等を明記しなければなりませんが、今はこれだけにて終らせて頂きます。

発見者の一人として説明の責任があると思い、報告させて頂きました。

これを書いていて奉讃歌の歌詞「国造らしし大神の勲（いさおし）高瀬の御社（みやしろ）は中世昔（なかつ）にきこえたる越中の国一の宮」の御神徳をあらためて感じております。

— 昭和47年3月
展示より返還されたときの古銭 —

— 拡大した写真 —

*1 高瀬遺跡
富山県南砺市高瀬にある石仏地区、穴田地区よりなる平安時代の遺跡。当社より南五百メートルの地点にあり、昭和四十五年（一九七〇年）に発掘された。石仏地区（国指定史跡）は荘園管理所、穴田地区（県指定史跡）は、平安前期中心の集落跡と考えられている。

*2 神功開宝
天平神護元年（七六五年）に鋳造された銭貨。皇朝十二銭の一つ。

*3 和同開珎
和銅元年（七〇八年）に鋳造された銭貨。皇朝十二銭の一つ。日本で広範囲に流通した貨幣としては、日本最古のもの。

*4 隆平永宝
延暦十五年（七九六年）に鋳造された銭貨。皇朝十二銭の一つ。

*5 万年通宝
天平宝字四年（七六〇年）に鋳造された銭貨。皇朝十二銭の一つ。

※このコーナーは氏子古老のお話しを聞いて記録しています。
山田澄一氏は大正七年生まれで今年数え九十九歳です。更なるご長寿をお祈り申し上げます。

高瀬の宝物①（備州住正広・二王）

（魚岸一弥記）

前号に、功霊殿の創建についてご紹介しました。昭和二十三年末より協議が始まり、昭和二十四年二月「高瀬村慰霊祭執行ニ関スル協議会」を経て、同年九月に鎮座合祀祭が斎行されたことは占領期ということを踏まえると創建に携れた方々にも相当の不安があったことと思われます。実際、当時はマッカーサー元帥の指令により全国の刀剣及び戦利品の没収が行われており、当社の刀剣も県下の警察によって没収の対象となりました。当時の富山県井波警察署の殿村彦義署長は、このことを非常に心配されましたが絶対命令であるので仕方ないということでありました。それから二ヶ月程たった頃、殿村署長より来署するように連絡があり、署へ神社の職員が行くと署長より「こんな立派な刀が屑鉄同様に扱われることを大変に恐れて、地区から出された刀を代替で出し、それで神社の刀は出たことにしたが、もう熱も冷めたのでお返しする」ということでした。現在、神社に刀剣が宝物として保存されているのは、当時の殿村署長をはじめ職員一同の深い思い計りのおかげであり、そのご恩に深く感謝したいと思います。

最後に当社の刀剣二振をご紹介します。

備州住正広

太刀　銘　備州住正広

嘉慶三年二月

正広は備後国三原（広島県三原市）に住していた刀工で、鎌倉時代末期頃から同銘が室町時代まで続いている。三原鍛冶は正家と正広の両工が著名であるが、作品は正広が圧倒的に多い。正広には貞治三年（一三六四）、至徳元年（一三八四）のほか嘉慶の年号を記した作が残っており、これらを二代目、あるいは三代目の作とみている。本作には嘉慶三年（一三八九）の年号があり、資料的にも貴重である。

二王

太刀　銘　二王

二王は周防国玖珂郡（山口県玖珂郡玖珂町）に住していた刀工の一派で、鎌倉時代中期頃の清綱を事実上の祖としている。二王派の刀工は清綱、清久、清房など「清」字を用いるものが多く、二字銘のほか、「二王清房」と二王を冠するもの、単に「二王」とのみ銘をきるものがある。本作は磨り上げられて茎先に銘が「二王」とあるが、その下に個銘があったかはわからない。二王派の作風は鎬の高い作り込み、板目に柾目が交った鍛、直刃のほつれた刃文など大和鍛冶の影響を受けているのが特徴であるが、本作にもそれが顕著にうかがえ、出来も優れている。製作時期は南北朝時代末期から室町時代初期とみられる。

※解説
（平成十二年三月当時
東京国立博物館学芸部研究員）
原田　一敏氏

上・備州住正広　下・二王

社のにぎわい

剣道大会

九月二十一日敬老の日、「第五十三回奉納剣道大会」が開催され、南砺・砺波・小矢部の小中高校生約二百名が集い、熱戦を繰り広げました。

大会は秋らしい爽やかな天候の下、野外で行う「野試合」で団体戦と個人戦を行い、鍛錬の成果を競いました。

試合結果は次の通りです。

《団体の部》

▽小学生男・女
①砺波市剣道スポーツ少年団
②晴武館

▽中学生男子
①井波中学校
②出町中学校
③庄西中学校

▽中学生女子
①出町中学校
②庄川中学校

《個人の部》

▽小学生男子
①武波　昴生（砺波）
②寺脇　輝（井波）
③吉澤　僚大（砺波）
篠原　一星（井波）

▽小学生女子
①横川陽夏羽（砺波）
②石川　菜（井波）
③齊藤　未來（砺波）
吉澤　結香（砺波）

▽中学生男子
①石川凌太朗（井波）
②神田　涼汰（井波）
③宮下　愛翔（庄西）
幸山　大（井波）

▽中学生女子
①松川　瑞穂（井波）
②田中　真尋（井波）
③篠原麻衣弥（出町）
藤森　早紀（庄川）

▽高校生男子
①池澤　恭輔（南砺福野）
②中山　智祐（砺波）
③野原　大靖（砺波）
長原　瑛吾（南砺福野）

▽高校生女子
①山本　優奈（南砺福野）
②廣島　麻矢（砺波）
③神保　春菜（南砺福野）
圓山　美郷（南砺福野）

里芋おはぎ茶会

十二月六日、南砺市井波地域特産の里芋を使ったおはぎを味わう茶会、「第十九回里芋おはぎ茶会」が行われ、約三百名が粘り気たっぷりのおはぎと、心尽くしの一服を味わいました。

井波茶道同好会が主催し、三宅宗静さんが本席（薄茶席）を、宮田宗茂さんが副席（香煎席）を務め、高瀬遺跡保存協会（久田久伸会長）が運営の協力をされました。

本席の床には西垣大道老師筆の軸「悠然見南山」が掛けられました。

みたに美容室創業百周年 ヘア&ブライダルショー

当神社の婚礼美容部門を担当している「みたに美容室」が、創業百周年を迎えました。

八月二十三日、創業百周年奉告参拝の後、新参集殿に於いて「ヘア&ブライダルショー」が開催され、約二百名が来場されました。来場者は、色鮮やかな衣裳と美しいモデルさんに熱い視線を注いでいました。

今後益々のご発展をお祈り申し上げます。

責任役員退任

武田　修氏
（砺波市庄川町）
平成二十七年八月三十一日

平成十六年より、責任役員としてご尽力賜りました。心より御礼申し上げます。

責任役員就任

藤井秀之氏
（南砺市坪野）
平成二十七年九月一日

同級生と厄祓

同窓会や里帰りに合わせ、同級生との「厄祓」を受け付けております。

年頭にあたり、ご友人とお揃いでご祈祷をお受け下さい。

期　間　二月三日 節分まで。
午前九時から
午後四時三十分まで。

祈祷料　五千円よりご志納願います。

平成28年 厄年・身祝一覧

〈厄年〉 数え年

	前厄		本厄		後厄	
男	24歳	平成５年（酉）	25歳	平成４年（申）	26歳	平成３年（未）
	41歳	昭和51年（辰）	42歳	昭和50年（卯）	43歳	昭和49年（寅）
	*60歳	昭和32年（酉）	*61歳	昭和31年（申）	*62歳	昭和30年（未）
女	18歳	平成11年（卯）	19歳	平成10年（寅）	20歳	平成９年（丑）
	32歳	昭和60年（丑）	33歳	昭和59年（子）	34歳	昭和58年（亥）
	*36歳	昭和56年（酉）	*37歳	昭和55年（申）	*38歳	昭和54年（未）

・数え年とは、満年齢に誕生日前には２歳、誕生日後には１歳を加えた年齢です。
・＊…この年を厄とする地域もあります。

〈身祝〉 数え年

	年齢	生まれ年
還暦	61歳	昭和31年（申）
古希	70歳	昭和22年（亥）
喜寿	77歳	昭和15年（辰）
傘寿	80歳	昭和12年（丑）
米寿	88歳	昭和４年（巳）
卒寿	90歳	昭和２年（卯）
白寿	99歳	大正７年（午）

・男女ともに祝います。

「里芋おはぎ茶会」について

幾つもある伝承を総合すると、この砺波地方に定着して未開の大地を開発した弥生人は本当に頭が良かったと思う。それは新開地に里芋を作り、慣れた土地は水田にして稲を作った。その年の天候によって、里芋が豊作の年には稲が不作となり、その逆の年もあったり、実に対照的な作物であったから、毎年、両方を作り食物の安定を計ったのです。

弥生時代から農耕神として栄えた高瀬神社には「芋がい餅」または「芋ぼた餅」「芋おはぎ」と呼ぶ御飯と里芋を煮て、かき混ぜた「おはぎ」が伝承されている。その風習は高瀬神社の社家である藤井家に伝承されている。毎年十月二十九日に作り、神にお供えする風習が五百年も続いている。

そこで、御年配の人なら思い出される人もあろうが、終戦前後の食糧不足の時代には混食を兼ねて「芋おはぎ」を作られたし、農家では稲の脱穀が終わると「ニョウ尻上げ」と言って「芋がい餅」を作って祝う風習があったが、今では途絶えて久しい。

平成八年十一月二十二日、同志社大学教授（考古学）の森浩一先生が芋洗い水車を見たいと井波町を訪れられた時、私達は里芋料理を作って出し、里芋談義に移って古代人と里芋の関わりや歴史の深さに驚きました。尚、その時に高瀬神社の石器を見に立ち寄った時、宮司さんが「芋おはぎ」を作って出された。

その味は弥生の味であり、魅惑の味であると感嘆され、「こんな食文化が今日まで伝承されているとは」と、心から喜ばれた。そこで「芋おはぎで御茶を」という話が言い続けられ、今日の「里芋おはぎ茶会」になったのです。

（故 岩倉節郎 記）

奉納

○「山形和傘」
山形県寒河江市
鬼海　尚仁　殿
九月一日

○「空気清浄機」
元権禰宜
辻林　秀嗣　殿
九月十一日

○「玄米保冷庫」
元嘱託
岩倉　友子　殿

○「初穂米」
氏子
岩倉　勲　殿
十月一日
南砺市塔尾
篠原　博志　殿
篠原欣司郎　殿
十月十一日
岐阜県関市
小石　達人　殿
十月十七日

○戦後七十年記念植樹
砺波市の花木
「エドヒガンザクラ」
砺波市嵐山保存会　殿
十一月七日

○「神饌米」
南砺市
井波地域中核農業士協議会　殿
南砺市北川
安田外喜男　殿
氏子
岩倉　和弘　殿

○「白菜・富山あんぽ柿」
南砺市高宮
窪田　謙治　殿
十一月二十三日　新嘗祭

節分祭 ～豆まき～

二月三日 午後三時斎行

祭典終了後には福豆・福飴を授与しますので、ご家族お揃いで、是非ご参列下さい。

戌の日（安産祈願）

1月　5・17・29日
2月10・22日
3月　5・17・29日
4月10・22日
5月　4・16・28日
6月　9・21日

腹帯のお祓いも行いますので
ご持参下さい。

入学祈祷のご案内

今春のご入学が待ち遠しいところです。

立派に成長されたお子様と共にお参りされ、入学の喜びをご奉告になり、お子様の益々のご健康と学業成就をお祈り願います。

どうぞ新しいランドセルや学生カバン、制服等でお越し下さい。

期　間　春分の日より
四月三十日まで。
午前九時から
午後四時三十分まで。

祈祷料　五千円よりご志納願います。

新嘗祭　平成27年11月23日

○「干支（申）水彩画」
小矢部市鴨島
森川外茂男 殿
十二月十五日

○「大注連縄」三張
高瀬神社注連縄奉納講
㈲あづちや、㈲アド・インシュアランス、㈲石森石材、浦田則子、太田配管㈱、㈱岡本清右衛門商店、鏡恵美子、㈱柿里、金森光紀、北島嘉孝、清都邦夫、クリックス商事㈱、佐伯松夫、島啓介、庄川温泉観光ホテル㈱、庄川自動車㈱、庄川泉源㈱、新川宣伝事務所、住友生命高岡万葉支部、㈲泉田自動車、高野俊彦、田口真紀子、土合貴之、東洋パック、となみ観光交通㈱、砺波工業㈱、トナミ醤油㈱、砺波ロイヤルホテル、長田神具店、㈱日東、㈱Nテック、㈱ニッポー、㈱日吉プランナー、藤森工業㈱、ブライダルコアあなだ、ブライダルハウスことぶき、北陸コカ・コーラボトリング㈱、㈱北国音楽センター、㈲丸栄運輸、㈱丸伸製作所、㈱ミッシュローゼ、ミヨ美容室、㈱Re・プレイス（五十音順・敬称略）
十二月二十日

○「干支（申）大絵馬」
南砺市山下
南部　栄 殿
富山市古鍛冶町
大谷美術学園
園長 大谷　弓子 殿
十二月二十三日

【表紙写真】
干支（申）大絵馬と
大谷美術学園の皆さん

「くにたまの会」からのお知らせ。是非ご覧下さい。

神話の国・出雲を舞台に紡がれるひとびとを結ぶ〈縁（えにし）〉の物語

出雲大社で初の本格的な映画撮影が実現！あなたもきっと誰かとの縁に気付く、真の縁結び映画の誕生。

平成28年1月16日（土）全国ロードショー！

発行日　平成二十八年一月一日
発行所　越中一宮 高瀬神社社務所
〒九三二―〇二五一
富山県南砺市高瀬二九一
TEL（〇七六三）八二―〇九三二
FAX（〇七六三）八二―三二〇四
編集人　長谷川宏幸
印刷所　牧印刷株式会社

晴れの日はハレの日

この地で二千年の歴史をもつ越中一宮 高瀬神社は、
縁結びの神様 大国主命（おおくにぬしのみこと）をまつる神社として多くの
神前挙式を執り行い、お二人の幸福を願ってきました。
越中一宮で一日一組大切に作り上げる、
一日一組の特別な神前結婚式。

縁結びの神様に誓う
伝統の結婚式を挙げていただく、
一生に一度の日だからこそ、
一日一組のカップルの為だけに、
このバンケットは生まれました。

一日一組限定の
おもてなしバンケットホール

只今
秋の婚礼
ご予約
受付中

このバンケットホールでのご結婚披露宴のご予約を承っております。
お気軽にお問い合わせ、ご相談いただきますよう、お待ち申し上げます。

あなたの人生に、神社がある。越中一宮 高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社 検索